

文教福祉委員会と建設委員は22日(木)に延期

中村利久議長急逝 新議長選挙は初の立候補制

9月議会(途中から)に続いて、今議会を病欠欠席していた中村利久議長(政清会・4期)が、ガンのため13日未明に逝去された。65歳の若さであった。かねてガンだとは知らされてはいたが、あまりの急逝でご遺族の心情を思うと言葉を失う。

なお、告別式の関係で21日に予定されていた常任委員会の2日目は22日に延期された。

しかし、議会は一日も議長不在は許されず、翌14日には野田市議会として初の立候補制と所信表明を行う議長選挙が行われることになった。

「与党」候補は野口義雄議員、「野党」議員は長南博邦議員が立候補し、それぞれ10分以内の所信表

明と、それに対する質問を受けた。ただし、これらは議会休憩中に行っているため、録画放送や議事録には残らない。

結果は野口義雄議員が圧勝で4度目の議長についた。

続いて西村福也副議長(公明党、3期目)が辞職(まだ1年交代を繰り返している)したため、副議長選挙についても同様に行われ、平井正一議員(政清会・3期目)が小室美枝子議員(市民ネットワーク、2期目)を破って当選した。

結果はこれまで通りだったが、議長・副議長候補者が議会運営や議会改革で公約をし、それに対する質疑で改革の方向性の一端が深まったのは歓迎される。



中村利久議員席に飾られた生花

長南博邦議員の立候補の理由と所信表明概要は次のとおり。

立候補の理由

議会を本来の相互議論の場、政策立案の場として、さらに市民に開かれた議会としてよりいっそうの改革を行うため。

所信表明の概要

市民の代表であることにふさわしい議会を追求するために、議会改革を推進する。そのために常任委員会の機能を充実し、相互議論を基調として政策研究と立案の場としたいこと。また、議会を議員による質問、質疑の場にとどまらせず、市長等の理事者との意見交換、さらには議会内外における市民と議会との相互議論の場をつくり、野田市のまちづくりや市民福祉の向上に資する議会をつくりたい。その一助として議会基本条例をつくっていきたい。

陳情4号

公募委員について複数の審議会等の委員の併任を可能とすることを求める陳情(総務委員会)

市民提出の請願・陳情

市民や市民団体から提出された陳情請願は次のとおり。()内の委員会名は審査する委員会。

請願1号

「国における平成30(2018)年度教育予算拡充に関する意見書」採択を求める請願(文教福祉委員会)

請願2号

「義務教育費国庫負担堅持に関

する意見書」採択に関する請願(文教福祉委員会)

陳情2号

議会常任委員会等の録音記録を議会ホームページ上で公表することを求める陳情(議会運営委員会)

陳情3号

まめバス運行検討への直接的な市民参加の促進を求める陳情(総務委員会)

数の暴力で共謀罪強行 議会制民主主義は崩壊状態

嘘とごまかし、そして不誠実、さらには委員会審査を放り投げて参院本会議で強行したのが共謀罪。

金田法相のボケぶりはまともに法案審査をさせないための高等術か。新社会党は抗議の党声明を出した。

捜査当局の判断で誰が狙われるのかわからない不安と監視社会がいつそう強まる。

しかも森友、加計問題を幕引きしようと国会を閉じてしまった。

しかし、「もりとかけ うまい汁だけ 吸い放題」(乱鬼龍)、その上食い逃げは許さない。安倍政権の終わりの始まりに。



合成写真。議員会館前の座り込みの後景に議事堂を入れてある。

暴走政権支持率急落・終わりの始まりに 南スーダン派遣自衛隊員帰国後自殺

内閣支持率急落。17、18日の両日の世論調査で、共同通信、毎日新聞ともに前回から 10 ポイント急落。毎日の場合は不支持率が

上回った。

しかし、あれだけの疑惑と共謀罪法案の強行で、わずか 10 ポイントの下落程度。やはり変わるべき対抗勢力の不在が影響している。かつて戦争法強行でも支持率が急落したが、いつの間にか成果もないのに内閣支持率が高くなってしまふ。日本人は民主主義を捨てたがっているのか。

一方、安倍政治の戦争政策で、ついに警告されていた南スーダン派兵から帰国した自衛隊員の自殺がわかった。

自殺したのは昨年 11 月に派遣され、初めて「駆け付け警護」や「宿営地の共同防護」任務を付与された第 11 次派遣部隊の一員で、4 月に撤収して帰国した岩手駐屯地(岩手県滝沢市)の男性施設科隊員。5 月 6 日に自ら命を絶っていた。

派遣隊員の PTSD は想像もできない。自衛隊員だからと戦地に送られてよいはずがない。

都議選は 23 日告示・7 月 2 日投票 安倍政権暴走にしっぺ返しを

23 日告示・7 月 2 日投票で始まる東京都議選。小池新党が台風の目となっているが、それ以上に注目されるのが安倍政治の審判だ。結局最後は選挙で民意を示さなければならぬ中で、やりたい放題の安倍政権をどうするのか、首都東京での民意が問われる。

今回新社会党は共同候補擁立で努力したが果たせなかった。しかし、これまでの共闘、野党共同の流れで、初めて共産党から推薦要請があるなど画期的な選挙戦となる。

それぞれの推せん・支援予定候補者の必勝のため、知人・友人紹介をお願いしたい。

なお、詳細は本紙今週号一面参照を。

新社会党推薦等の都議選予定候補

- ①北 区 (定数 3):そねはじめ (共産・現)
- ②練馬区 (定数 6):とや英津子 (共産・新)
- ③新宿区 (定数 4):大山とも子 (共産・現)
- ④千代田区 (定数 1):須賀和夫 (無所属・新)
- ⑤世田谷 (定数 8):桜井純子 (社民・新)
- ⑥小金井 (定数 1):漢人あきこ (無所属・新)
- ⑦杉並区 (定数 6):小松久子 (生活者ネット・現)